

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

第4学年国語科学習指導案

単元名 〈問い〉をつくって、物語を読み深めよう ～場面や登場人物の変化に気を付けて読もう～

学習材「ごんぎつね」（光村図書 4年下）

日時：令和7年2月21日(金)5校時
児童：大田区立洗足池小学校 第4学年3組 28名
担任：大田区立洗足池小学校 教諭 松本 のぞみ
指導者：葛飾区立堀切小学校 主任教諭 下山 美佳

1 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕(1)エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕(1)オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
文章から気付いた言葉により、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。C(1)エ ②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ	登場人物の気持ちの変化や性格、情景を表す言葉に着目し、粘り強く、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

児童はこれまで「白いぼうし」や「一つの花」などの文学的文章を読む学習を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読んだり、登場人物の性格を捉えたりする学習を行ってきた。本単元では、場面と場面とのつながりを捉えたり、それを登場人物の気持ちの変化と結び付けて読んだりする力を身に付けさせたい。また、自分の考えを友達に話したり、友達の考えを聞いたりを通して、多様な考えに触れ自らの考えを深める学習活動を毎時間取り入れていく。物語について自分では気付かなかったことに気付いたり、自分にはなかった価値観に触れたりして作品の世界をより深く味わうことにつなげる。

(2) 学習材について（学習材観）

「ごんぎつね」は情景描写や登場人物の気持ちの変化などが的確に表現されており、長年に渡り教科書に掲載されている作品である。登場人物のごんと兵十の行動、気持ちの変化やすれちがうことへのやるせなさなど、場面をつなげながら読むことで、読み手である児童の思いも深まっていく。第4学年の児童にとって、叙述から、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを読み取り、想像したことを他者と交流することで、互いの感じ方の違いに気付くことができる学習材であると考えた。児童が登場人物の変化を捉えるためには、作品の冒頭で登場人物がどのように紹介されているか等、場面設定を適切に読む必要がある。その上で場面の展開に応じて表現されている情景描写や登場人物の気持ちの変化の叙述に着目して読みを進めることが大切である。

(3) 単元について（単元観）

本単元では、児童が意欲的に読み進め、主体的な学びとなるよう、初読後の感想を生かした単元づくりを行う。「構造と内容の把握」に関する問いでは、登場人物の行動や情景描写などを、叙述を基に捉えられるように丁寧に扱う。「精査・解釈」に関する問いでは、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を具体的に想像することを主軸とする。叙述を基に考えをもつことができる問いを設定することで、ごんと兵十の気持ちのすれ違いや関係性に気付かせることができる。最後の場面では、児童一人一人が課題を解決するために読みの観点に沿って読み進めてきたことで作品の捉え方に違いが出ると考えられる。課題を解決していく中で、特に精査解釈から一人一人が考えを形成できるように、協働的な学びを効果的に取り入れていく。互いの考えを共有することで、読み方によって多様な見方や考え方ができることに児童が気付くことができるようにしていく。

4 読むこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

文学的な文章においての言葉による見方とは、物語などのエピソード(出来事)の展開としてのストーリーを理解するだけでなく、人物の会話や地の文における人物の行動や心情の描写や説明がどのように叙述されているのか、人物と人物との関係、場面の情景、場面と場面との関係がどのようになっているか、人物像や作品の全体像がどのように形象化されているのかに着目することであると考える。文学的な文章においての言葉による考え方とは、虚構の形で表現された登場人物の心情や表現の効果等について、叙述をもとに比較したり、類推したり、因果をとらえたり、分類したりすることと考える。そして、文学的な言葉への自覚を高めることが、「言葉による見方、考え方を働かせること」であると捉えた。読むことでは、言葉による見方を読みの観点、言葉による考え方を整理分析の方法と呼ぶこととする。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

①学習課題への興味・関心を高める。

第一次で「ごんぎつねの魅力は何か」という物語全体を捉える「大きな問い」を設定し、学びの方向付けを行うことで、学習への興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるようにしていく。学習課題である「大きな問い」を解決するためにどのように考えていきたいかを意識させることで、各時間における「小さな問い」の言葉を吟味する必然性が生まれる。そこで、児童がもつ物語への「問い」を全体で共有し学習計画に活用していく。扱う「問い」については、「叙述から根拠を見付けられる問い」、「学習課題の解決に向かう問い」、「みんなで読み深めてみたい問い」など視点を明確にして「問い」を設定できるようにする。

第二次では、授業で扱う「問い」を学級全体で考えていくようにする。「問い」につながる叙述を「この場面のごんはどのような気持ちだろうか」、「加助と兵十が話している場面では、ごんはどのように聞いているだろう」など教師が問い掛けることを通して、児童が叙述を基に自ら考えられるようにする。児童の考えで出てきた「問い」や教師が付け加えた「問い」をどのように扱っていくかを協議し、選んだり順序を決めたりする過程を大切にすることで学びの主体性を促す。

第三次では「ごんぎつねの魅力を伝え合おう」という、最初に触れた「大きな問い」に関して考えをまとめる言語活動を位置付け、児童は第二次で積み上げてきた考えを活用して自分の考えをまとめていく。理解が十分に進んでいるかについては児童の実態や理解の状況に

合わせて児童が主体的に考えていけるように指導の工夫を行う。

②児童が「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用できるようにする。

読むこと部では、「自立した学習者」を育成するためには、児童の「課題解決に向けて『読みの観点』と『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」を高めることが必要であると捉えている。しかし、この力を高めるためには、児童が自分の学びを客観視できることが大前提となっており、高度な思考力が求められる。そこで、読むこと部では、児童の発達段階を踏まえ、低学年から段階的に「読みの観点」と「整理・分析の方法」を活用する授業を展開する。

【「課題解決に向けて『読みの観点』と『整理・分析の方法』を意識的に活用できる力」の系統性】

	低学年	中学年	高学年
め ぎ す 児 童 の 姿	「本時のめあて」と、「読 みを深めるために学級で取 り組んだ活動」をつなげて 学習を振り返ることができ る。	学習課題の解決に向けて自 分がどのような読み方をし たかを相手に伝えるため に、提示された複数の「読 みの観点」や「整理・分析 の方法」から、自分が活用 したものを選択できる。	学習課題の解決に向けて自 分がどのような読み方をし たかを相手に伝えるため に、自分が活用した「読 みの観点」や「整理・分析 の方法」について説明でき る。

○教材分析表の工夫（別紙参照）

○教師の支援

前述の「文学的文章における言葉による見方」を生かし、叙述を基に児童が自ら読み進められるよう「読みの観点」として、「人物の性格」、「行動」、「会話」、「心情」、「情景」、「語り手」、「場面の様子」など児童が分かりやすい表現で整理した。「読みの観点」を「読みのたから箱」と設定し、振り返るための観点としても活用できるようにした。第二次から学級で考えた「問い」で学習が進められていく中で、自分の読みがどのように形成されたかについて「読みのたから箱」に沿って振り返る場面をつくることとした。また、前述の「文学的文章における言葉による考え方」として、「整理する」、「比べる」、「見直す」、「つなげる」などの学習活動を「整理・分析の方法」として位置付ける。

具体的には、「ごんが『ほっとして』という表現は「心情」であるが、「あなからはい出る」という表現は「行動」に分類できるが、「心情」と「行動」はどうつながっているかなど、初めのうちは「読みのたから箱」の内容をどのように活用していくのかを教師が示し、段階的に自分で使えるように促していく。「読みのたから箱」を教室に掲示したり、ワークシートの一部として示したりして活用しやすい形で運用していく。

「問いかけ→応答→価値付け」を繰り返すことで、児童が「読みの観点」や「整理・分析の方法」を活用して読むことを日常化し、高学年へとつなげる。

○振り返りの工夫（読みの足あと）

「読みのたから箱」は児童自身が自らの読みの観点や整理・分析の方法に基づいて「問い」に対する自分の考えがもてるように活用するとともに、読みの積み重ねを自分の「読みの足あと」として捉え、今後の学びに生かせるようにする。「読みの足あと」には、「たら、今日の問いに対する自分の考えがもてた」等の文例を示し、に自分の読み方を記入させる。例えば、「今回の場面と前の場面のごんの行動を比べ（たら、）」等である。中学年の段階で、「読みの観点」や「整理・分析の方法」に関わる言葉を適切に使えるようにして、高学年へとつなげる。

(2) 学習活動において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。

(確かにする、広げる、高める、決める、などを含む)

①児童一人一人が自分の考えをつくり出す言語活動を設定する。

——「ごんぎつねの魅力は何か」という「大きな問い」について考えることを通して、「ごんぎつね」の魅力について伝え合い、それぞれの時間で扱う「小さな問い」について終末段階まで読んだ上で自分の考えをもち、まとめる言語活動を行う。第二次で行った「問い」に沿った

読みの積み重ねを振り返りながら、ごんの葛藤や複雑な気持ち、兵十への思い、結末についての捉え方など、多面的に物語を捉えた上での考えをまとめられるようにする。

②交流活動の工夫によって、新たな考えの発見につなげる。

多様な考えに触れる交流をするための意図的にグループ編成を行う。第二次では、毎時間学級で考えた「問い」について自分の考えをもち読み進めていきやすいように、どのグループも円滑に話し合いができるように促す。交流によって、様々な考えに触れ自分の考えを広げたり深めたりすることができる環境を整える。

また、交流場面では、読み合えるようなワークシートの工夫や全文シートに書き込んだ内容の活用を行う。

さらに、グループの考えをメモできるように短冊の活用、思ったことや、聞きたいことをメモできる一言コメント欄、タブレットを活用して考えの共有を図れるようにしたりするなど、考えの進捗状況と実態に合わせた多様なツールを活用し、互いの考えを交流しながら話し合いが進められるようにする。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

①言語の特徴や使い方を意識できる活動を通して言語感覚を養う。

毎時間の学習の振り返りを行う中で、言葉についても意識できるようにする。毎時間のまとめを行い、まとめていく言葉の中で表現の仕方を意識できるように指導の工夫を行う。「ごんがつかないを続けたのは、罪悪感からだと思っていたが友達の意見を聞いて『気付いてほしい』という理由もあると感じた。根拠は…」、「最初のごんと兵十の間柄が分からなかったけれど『かげをふみふみ』という言葉からごんが兵十に少しずつ近づいていく様子が分かった。そのときのごんの気持ちは…」など、まとめていく文章の中で叙述に沿った言葉の活用を意識できるようにする。毎時間言葉による気付きを促していくことで、単元のまとめとなる『『ごんぎつね』はこのような魅力ある物語』についても、言葉の扱いを意識した考えや感想、意見のまとめとなるようにしていく。

②関連図書を紹介し、読書を促す。

読んだ感想を話し合う意義や楽しさを味わえる交流を行う。毎時間、「問い」について皆で同じ疑問について話し合ったり、意図的グループで交流したりする時間を設定することは、同じ物語を読んでも多様な感想が生まれることや、それを交流することで自分の考えが広がる楽しさを味わえることにつながる。単元全体を通して、人と関わることで今後の読書活動が豊かなものになることに気付かせることができると考える。

6 単元計画（全8時間）

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 内容 と 構造 の 把握	1	1 既習の文学的教材を振り返る。 2 範読を聞き物語の大体を捉える。 ○大まかなあらすじ 一→兵十にいたずらをするごん 二→そうしきを見て後かいするごん 三→つぐないをつづけるごん 四→兵十と加助の会話を聞くごん 五→ひきあわないなあと思うごん 六→兵十にうたれてたおれるごん ○登場人物、難語の確認 <ごん>・ひとりぼっちの小ぎつね ・森の中に穴をほって住んでいる。 ・いたずらばかり いたずら好き <兵十>・ぼろぼろの黒い着物 ・家族を亡くしてひとりぼっち ・ごんに対してのうらみ 3 登場人物のしたことや出来事に着目して感想を書く。 ○気になる言葉や好きな場面など ○どんな話か、そう思った理由 ○読んで疑問、不思議に思ったこと	○これまでの学習方法を振り返る。 ○「読みのたから箱」に「読みの足あと」をためていくことを伝える。 ○行動や気持ちを手掛かりに場面ごとに要約し大まかなあらすじを捉えられるようにする。 ○ごんと兵十はそれぞれどんな人物か、一場面の叙述を手掛かりにしてまとめられるようにする。 ○物語に対して自分の考えが明確になるよう感想に視点を設ける。 ○既習の文学的教材を提示し「問い」のイメージをもちやすくする。	〔知識・技能①〕 ワークシート、 発言 ・場面の様子や登場人物の言葉、様子などを表す语句について着目し、語彙を豊かにしているかの確認
	2	1 感想から単元を通して考える大きな問いを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ごんぎつねの魅力は何か。 </div> 2 「ごんぎつねの魅力は何か」についてどのような問いがよいか考える。 3 4人程度で交流し、グループで〈問い〉を決める。 4 全体で共有し、学習課題となる〈問い〉を決める。	○児童の言葉を活用して設定する。 ○児童が「大きな問い」と「小さな問い」を比べられるよう全文シートで確かめるよう助言する。 ○授業で扱う〈問い〉を確認する。	
第二次 内容 と 構造 の 把握 ／ 精査 解釈 ／ 考え の 形成	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> なぜ、ごんはつぐないを始めたのか。 </div> 1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ○人物の性格、会話、行動、気持ちの変化などに着目する 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達の考えを基にする 5 次時の学習課題を確認する。	○「読みのたから箱」を提示する。 ○ごんがつぐないを始めたきっかけになった部分にサイドラインを引き、気持ちの変化に気付けるようにする。 ○会話や行動等から、気持ちの変化を場面の移り変わりを結び付け想像できるようにする。 ○考えとその理由となる根拠を示して話し合うことを確認する。 ○「問い」を再考できるよう視点を提示する。	〔思考・判断・表現①〕 ノート、発言 ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認

第二次 内容 と 構造 の 把握 / 精査 解釈 / 考え の 形成	4	引き合わないなど思ったのに、なぜその明るく日も くりを持って兵十のうちへ出かけたのか。	1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ○会話、行動、気持ち、情景などに着目する 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達のを基にする 5 次時の学習課題を確認する。	○「読みのたから箱」を提示する。 ○ごんが兵十と加助の話をもどどのように聞いているか言葉や行動から、ごんの思いを想像し自分の考えに生かせるようにする。 ○登場人物の会話や行動を中心に、気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて想像できるようにする。 ○考えとその理由となる根拠を示しながら話し合うことを確認する。 ○「」を再考できるように視点を提示する。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>ワークシート、発言、観察</u> ・ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて自分の考えをまとめようとしているかの確認
	5	火縄じゅうをばたりと取り落としたとき、兵十は どんなことを思っていたのか。	1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ○会話、行動、気持ちの変化、情景などに着目する。 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達のを基にする 5 次時の学習課題を確認する。	○「読みのたから箱」を提示する。 ○兵十の気持ちの変化に着目するために、変化後の「ばたりと取り落とした」という言葉にも触れる。 ○登場人物の会話や行動を中心に、気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けながら想像できるようにする。 ○考えとその理由となる根拠を示しながら話し合うことを確認する。 ○「問い」を再考するため、視点を提示する。	〔思考・判断・表現②〕 <u>ノート、発言</u> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているかの確認
	6	ぐったりと目をつぶったままうなずいたとき、 ごんはどんな思いだったのか。	1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 ○行動、語り手、情景などに着目する 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達のを基にする 5 次時の学習課題を確認する。	○「読みのたから箱」を提示する。 ○最後のごんの思いを読む際に、これまでの着目してきた叙述を確かめ、自分の考えにも生かせるようにする。 ○登場人物の会話や行動を中心に、気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けながら想像できるようにする。 ○考えとその理由となる根拠を示しながら話し合うことを確認する。 ○問いを再考するため、視点を提示する。	

<p>第二次 内容と構造の把握／精査解釈／考えの形成</p>	<p>7</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 兵十とごんは、最後分かり合えたのか、そうではないのか。 </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 今までの学習を基に〈問い〉について自分の考えを明らかにする。 ・分かり合えたのか、そうではないのかどちらかを選び、その理由となる根拠を挙げて自分の考えを書く 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達の考えを基にする 5 次時の学習課題を確認する。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○「読みのたから箱」を提示する。 ○自分の立場を明確にするために分かり合えたのか、そうではないかの2択から選ぶよう促す。 ○考えとその理由となる根拠を示しながら話し合うことを確認する。 ○語りの構造にも着目させ、兵十からの伝承の物語であることを意味づける。 ○考えの思考を広げるために、友達の意見との相違点や共通点を見付けながら話し合うように促す。 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔思考・判断・表現②〕 ノート、発言 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているかの確認 </div> </div>
<p>第三次 考えの形成／共有</p>	<p>8</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「ごんぎつね」の魅力を伝え合おう。 </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 〈問い〉を確認し、学習の見通しをもつ。 2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えをまとめる。 3 考えを共有する。(グループ・全体) 4 グループや全体の検討を踏まえ、〈問い〉についての考えをまとめる。 ・どの「読みのたから箱」を使ったか ・グループや全体共有から自分の考えの変容や友達の考えを基にする。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○4年生で学習した物語文「白いぼうし」「一つの花」の魅力について振り返る。 ○「ごんぎつね」の魅力について、学習した教材と比べながら、考えとその理由となる根拠を示し、話し合うことを確認する。 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔思考・判断・表現②〕 ノート、発言 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているかの確認 </div> </div>

7 本時の学習（5 / 8）

(1) 本時のねらい

最後の場面で、兵十はどんなことを思っていたのか、叙述を基に想像することができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 〈問い〉を確認し、読みの課題に関わる部分を読む。	○『読みのたから箱』を提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 火縄じゅうをばたりと取り落としたとき、兵十はどんなことを思っていたのか。 </div>		
2 本文の叙述を根拠に、課題に対する自分の考えを書く。 C：今までくりやまつたけをくれていたのはごんだったと知り、取り返しのつかないことをしてしまった。 C：青いけむりがまだつつ口からというところが兵十の悲しさを表している。	○兵十の気持ちの変化に着目するために、変化後の「ばたりと取り落とした」という言葉に触れ、兵十の心情を想起できるようにする。 ○行動や会話を基に、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を捉えているか確認する。 ○叙述の揭示を活用しながら兵十の気持ちの変容を考えていくように助言する。 ○互いの考えを話し合い、共通点や相違点にも着目できるように交流の視点を明確にしておく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート、発言、観察 ・ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて自分の考えをまとめようとしているかの確認 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・兵十の気持ちの変容を捉えるために、場面ごとの兵十の行動に着目して、叙述を比較したり、叙述から類推したりしている。 </div>
3 グループで考えを共有する。 C：兵十のごんに対する呼び方が変化していることから最後の衝撃が大きいことが分かる。 C：語り手の視点が第6場面でごんから兵十へ変化していることから、物語の悲しみが伝わる。		
4 全体で考えを共有する。	○思考の再考ができるよう、個人の読みが整理されるように板書していく。	
5 どんな読み方で自分の考えを形成したかについて児童の言葉でまとめる。	○自分が〈問い〉を考える上で『読みのたから箱』の何に着目して考えたのか確認する。	
6 振り返りを行う。	○交流を通して、自分の考えの変化や変容、相手の考えから気付いたことや大事だと思ったことを振り返るよう助言する。	

(3) 板書計画

ごんぎつねの魅力は何か。

新美 南吉

問い 火縄じゆうをばたりと取り落としたとき、兵十はどんなことを思っていたのか。

みんなの考え

【会話】
「おや」びっくり
なぜくりがあるんだ 状況が分からない
「ごん、おまいだったのか・・・」
いろいろなもの置いていたのはごんだと知る
神様と思っていてごめん
おどろいた
ごん うなずく

【行動】 火縄じゆうをばたりと取り落とす
ごんのつくえないに初めて気付く
うってしまった 後かい ちなしさ

【情景】 青いけむりが、…
兵十の 悲しみ
ごんのままの表れ

【変化】 「ごん」の呼び方
ぬすつとぎつね
ごんぎつねめ
悪いやつ だろほう
にくい ゆるさない
悲しい、ごめん
悪く言っていない

兵十の挿絵

今日のふり返り

- ・兵十の思いを深く考えることができた。
- ・問いで考えたところ以外でも考えや理由を探すことができた。
- ・友達の考えを聞いて、自分の考えをもう一度考え直すことができた。

8 資料

今日の学習で				
	() さんの考えを理由メモ	() さんの考えを理由メモ	() さんの考えを理由メモ	() さんの考えを理由メモ

ごんぎつね

火縄じゆうをばたりと取り落としたとき、兵十はどんなことを思っていたのか。

新美 南吉